

竹田医師会病院

公的医療機関等 2025 プラン

平成29年10月策定

【基本情報】

- 医療機関名： 竹田医師会病院
- 開設主体： 一般社団法人 竹田市医師会
- 所在地： 竹田市大字拝田原 448 番地
- 許可病床数： (病床種別) 一般病床 84 床
療養病棟 72 床 <計 156 床>
(機能別) 急性期 84 床
慢性期 72 床 <計 156 床>
- 稼働病床数： (病床種別) 一般病床 84 床
療養病棟 72 床 <計 156 床>
(機能別) 急性期 84 床
慢性期 72 床 <計 156 床>
- 診療科目： 内科、外科、整形外科、小児科、リハビリテーション科、
(標榜科目) 放射線科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、麻酔科
- 職員数 (平成 29 年 10 月 1 日現在) ※非常勤は実人数を記載しています。

医師	:		常勤 6 名、非常勤 21 名
看護職員	:	<看護師>	常勤 41 名、非常勤 5 名
		<准看護師>	常勤 33 名、非常勤 4 名
		<看護補助者>	常勤 27 名、非常勤 8 名
		<助産師>	常勤 0 名、非常勤 0 名
		<看護学生>	常勤 0 名、非常勤 7 名
専門職	:	<理学療法士>	常勤 13 名、非常勤 0 名
		<作業療法士>	常勤 1 名、非常勤 0 名
		<言語聴覚士>	常勤 2 名、非常勤 0 名
		<薬剤師>	常勤 2 名、非常勤 0 名
		<臨床検査技師>	常勤 5 名、非常勤 0 名
		<臨床工学技士>	常勤 6 名、非常勤 0 名
		<診療放射線技師>	常勤 6 名、非常勤 0 名
<管理栄養士>	常勤 2 名、非常勤 0 名		
事務職員	:		常勤 42 名、非常勤 0 名

(合計) 常勤 186 名、非常勤 45 名

【1. 現状と課題】

(1) 構想区域の現状

① 地域の人口および高齢化について

平成 37 年度における豊肥地区の将来人口推計は、総人口 50,512 人（平成 27 年度 58,916 人／▲8,404 人）となる見込みです。

また、平成 37 年度における 65 歳以上の人口推計は 23,708 人（47%）、75 歳以上の人口推計は 15,260 人（30%）となる見込みで、大分県下の中で依然として 65 歳以上の高齢者が占める割合が一番高い地区となっています。

② 将来の医療需要について

平成 37 年度における豊肥地区の必要病床数は 608 床となる予測であり、305 床が余剰となります。内訳は、高度急性期△33 床、急性期▲350 床、回復期△110 床、慢性期▲33 床、等です。

③ 疾患ごとの患者の受療動向について

豊肥地区における疾患別受療医療機関につきましては、豊肥地区と中部地区（大分市・由布市等）で二分する傾向にあります。中部地区には大分大学医学部附属病院、大分県立病院などの高次医療機関や専門病院が集中しているため、豊肥地区の医療機関から転院して本格的に加療するケースが多くみられます。

悪性腫瘍（胃・大腸・直腸・肺・乳房・肝）、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神医療、等。

(2) 構想区域の課題

豊肥地区は全国的にも最も高齢化が進行しており、また、人口減少も著しい地区となっていることから、医療需要は大幅に変動する見込みはありません。

二次救急病院は当院を含めて数か所ありますが、高度急性期の患者は中部医療圏との連携に基づき、必要に応じて転院搬送しております。今後、さらに機能分化・連携強化を図るとともに、高度急性期の患者も圏内で医療サービスが提供できる体制構築が必要です。

厚生労働省「病床機能報告」と必要病床数を比較すると、回復期の病床が今後不足することが予想されることから、余剰となる急性期の病床を回復期の病床に転換することも求められています。

本地区は、広大なエリアに住民が分散しているため、医療機関から離れている集落や中山間地域では訪問診療・訪問看護を行うにも限界があります。

家族が遠隔地に居住していることにより独居生活を余儀なくされている、また、家族の介護力がない（老々介護）、見守りできる住民が付近におらず、集落自体が崩壊の危機に瀕している（限界集落）等、コミュニティが成立しなくなっている現在、入院や介護施設入所に対応せざるを得なくなっている

います。患者の要望に耳を傾け、区内の全ての開業医とも連携しながら、圏内で診察できる患者は可能な限り対応する、重症患者は一旦、中部地区の高次医療機関で加療した後、安定期に入った段階で地元が引き受ける等の対応が重要です。

(3) 自施設の現状

① 理念および基本理念

【設立理念】（昭和 43 年 6 月 11 日付）

竹田医師会病院は、竹田直入地域における中核病院として、他の病院、診療所と連携し、住民に良質の医療を提供することによって、住民の健康保持、福祉の向上に寄与することを使命とする。

【基本理念】（平成 26 年 11 月 1 日付）

地域医療・・・安全で質の高い医療を提供し、地域から愛される病院を目指します。

災害救急医療・・・救急告示病院、災害拠点病院として機能向上に努め、地域に信頼される病院を目指します。

連携医療・・・かかりつけ医をはじめとした医療機関、介護・福祉施設、行政等の関係機関との連携を深め、地域と共に歩む病院を目指します。

② 診療実績（平成 29 年 10 月 1 日現在）

・届出入院基本料

一般病棟入院基本料（10 対 1） 84 床

療養病棟入院基本料 2（25 対 1） 72 床

・平均在院日数

一般病棟・・・ 19 日

療養病棟・・・ 124 日

・病床利用率

一般病棟・・・ 93%

療養病棟・・・ 91%

③ 当院の特徴

当院の診療エリアは、竹田市並びに隣接する豊後大野市の一部、熊本県阿蘇市の一部など、広範囲の患者を診察しております。平成 26 年 11 月に基本理念を見直し、「地域医療」・「災害救急医療」・「連携医療」の三本柱を掲げ、理念の実現に向けて、地域の医療・介護・福祉機関と連携しながら、地域住民に信頼される医療サービスの提供に取り組んでいるところです。

当院は、平成 26 年 3 月 1 日に「大分 DMAT 指定病院」として指定され、限られた人的資源の中、医師や看護師、コメディカル等でチームを構成し、訓練を積み重ねながら、災害急性期の傷病者に対応できる高い判断能力と機動性を兼ね備えた隊員養成を進めており、指定後の現場出動件数は延べ 220 件を上回っております。

「二次救急医療機関」「災害拠点病院」「へき地医療拠点病院」の活動を通じて、竹田市医師会の先生方、行政機関および福祉施設等との連携を強化促進し、地域住民並びに周辺地域の皆様から愛され、必要とされる医療機関を目指して邁進しております。

④ 当院が担っている主な政策医療

二次救急指定病院、救急告示病院、災害拠点病院、大分県 DMAT 指定医療機関、へき地医療拠点病院、地域医療支援病院 等

⑤ 他の機関との連携

当院は「開放型病院」であることから、原則、開業医（かかりつけ医）の紹介状に基づき、外来診察を行っております。

また、「地域医療支援病院」の機能を担っているため、地域医療連携室が窓口となって、地元開業医や介護施設は勿論、高次医療機関等、他地区の医療機関等との連携強化を図りながら、入院患者の退院・転院・受け入れを積極的に行っております。

(4) 当院の課題

豊肥地区においては、医療需要の減少が見込まれる反面、高齢者に対する医療サービスの維持・向上について、行政および圏内医療機関と連携の上で、「地域包括ケアシステム」の運用に向け、医療・介護が一体となった仕組み作りが急務となっております。

また、豊肥地区には「DMAT 指定医療機関」が当院の他、豊後大野市民病院があり、平成 30 年 3 月に大久保病院が新たに災害拠点病院・DMAT 指定医療機関となる予定であります。

かかる中、現在、本地区における DMAT・医師派遣活動を平時から積極的に展開しているのは当院のみであります。限られた人的資源の中、竹田市は勿論、豊後大野市や熊本県阿蘇市の一部（産山村・波野村）を活動エリアとして、救急医療を行っておりますが、他医療機関との温度差がかなりあり、偏向しております。

医師や看護師が不足する現下において、日々、救急医療を行っておりますが、圏内での協力体制を強化・推進することにより、救急医療体制の平準化が重要となっております。

【2. 今後の方針】

(1) 地域において今後担うべき役割

現在、当院には脳疾患や心臓疾患を診察する専門医が在籍しておりません。しかし、当院で対応できる処置および検査を行った後、必要に応じて他地区の高次医療機関や専門の医療機関に転送する取り扱いを行っております。当院は、救急患者は一旦受け入れるという“つなぎ”の役割を担いながら、他医療機関との連携の下、地域住民に対して、信頼できる救急医療サービスを提供します。

(2) 今後持つべき病床機能

現在の急性期病棟は一程度維持していく中、療養病棟につきましては、規模の適正化を精査する中、一部の病床を「地域包括ケア病棟」等、他機能へ転換を図ることにより、安定した医療収入確保に向けて検討が必要と考えております。

(3) その他見直すべき点

今後の医療需要の推移を慎重に見極めながら、最適な病床規模を維持・継続していきたいと考えております。

【3. 具体的な計画】

(1) 4 機能ごとの病床のあり方について

① 今後の方針

	現 在 (平成 28 年度病床機能報告)	将 来 (2025 年度)
高度急性期	0 床	0 床
急性期	84 床	84 床
回復期	0 床	0 床
慢性期	72 床	72 床
(合計)	<u>156 床</u>	<u>156 床</u>

② 具体的な方針および整備計画

「地域包括ケア病棟」の転換を計画していますが、時期および病床数等、今後、具体的に検討することとしており、現段階でお示しできることはありません。

③ 年次スケジュール

現段階で改修計画はありません。

- (2) 診療科の見直しについて
現段階で見直す計画はありません。

(3) その他の数値目標

① 医療提供に関する項目

- ・病床稼働率 現状 95% → 目標 98%
- ・手術室稼働率 現状 40% → 目標 50%
- ・紹介率 現状 72% → 目標 80%
- ・逆紹介率 現状 89% → 目標 95%

② 経営に関する項目

- ・人件費率 現状 63% → 目標 60%
- ・医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等の割合）
 現状 0.3% → 目標 0.3%

【4. その他】

(特筆すべき事項はありません。)

以 上